

平成 26 年 2 月 28 日

学位論文審査並びに最終試験結果報告書

大学院薬学研究科長 殿

主 査 平 藤 雅 彦

副 査 富 樫 廣 子

副 査 青 木 隆

副 査 増 田 園 子



このたび 井上 純孝 にかかわる学位論文審査並びに最終試験を行い下記の結果を得たので報告する。

記

1. 学位論文題目

情動ストレス応答における海馬シナプス可塑性とセロトニン作動性神経の性差に関する研究

2. 論文要旨 別添

3. 学位論文審査の要旨

ストレスに起因するうつ病や不安障害などの精神疾患には性差が存在し、その背景には情動ストレス応答に関与するセロトニン (5-HT) 作動性神経系の性差が存在している。しかし、その機序を海馬シナプス可塑性との関連性から検討した報告はない。本学位論文は、情動ストレス応答での性差について、ラット海馬シナプス可塑性における 5-HT 作動性神経系の関与を行動薬理的、神経化学的、電気生理学的手法などを駆使して多角的に検討したものである。その結果、情動ストレスに対する行動学的変化及び海馬における長期増強を指標にしたシナプス応答の性差には、正中縫線核から海馬に投射する 5-HT 作動性神経系、特に海馬 5-HT<sub>1A</sub> 受容体の機能的変化あるいは扁桃体や大脳皮質の GABA 作動性神経系を含めた情動神経回路における性差の可能性を示唆した。

今後、情動調節機構を性差という視点からエストロゲンの関与についてもさらに追求することにより、ストレス性精神疾患の病因を明らかにするだけでなく、新たな治療戦略の構築に繋がることが期待される研究であると評価できる。

4. 最終試験の要旨

研究発表会における発表は論旨の通った内容であり、発表会及び口頭試問における質疑応答にも的確な対応をした。また、学位論文は多くの文献を引用して論理的な記述がなされており、多面的な議論により説得力のある結論を導いている。これらのことから、学位授与に値する十分な学力を有すると認められる。

以上の結果、井上純孝は博士（薬学）の学位を授与する資格の ある ない ものと判定する。

以上